

民児協 あこう

広げよう 地域に根ざした 思いやり

第 42 号 平成 25 年 春号

いきいきとオペレッタを演じる
城西幼稚園児たち



竹馬のリチャレンジ



ミニミニおしゃべり会



塩屋幼稚園児と民生委員
児童委員の昔遊び伝承会

民生委員児童委員信条

- 一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。
- 一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。

- 一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

- 一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

- 一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

児童憲章

- 児童は、人として尊ばれる。
- 児童は、社会の一員として重んぜられる。
- 児童は、よい環境の中で育てられる。

個別 援助



問題となるケースへの対処法を勉強しています

養育困難な家庭の支援を関係機関と連携しながら行っています。

これらの活動がスムーズに行えるよう、研修会を開いています。

主任児童委員研修会（月1回程度）で毎月の活動報告、事例研修、情報交換などを行っています。

勉強会（自主活動）で問題となるケースへの対処法を勉強しています。

児童健全 育成



赤穂小学校での朝のあいさつ運動

- あいさつ運動参加
- 地域サポートチーム会議参加
- 青少年育成会議参加
- 個別支援会議参加
- 学校評議員、各学校園の行事参加
（運動会・音楽会・卒業式・オープンスクールなど）

こんにちは、主任児童委員です

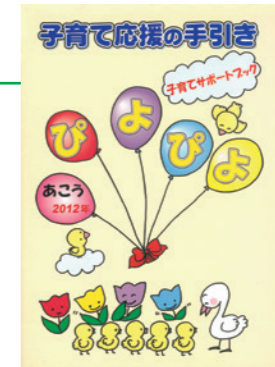
Q 民生委員は聞いたことがあるけれど、主任児童委員って？

A 赤穂市には各中学校区に一人ずつ5人の主任児童委員がおり、児童福祉に関することに取り組んでいます。

主な活動内容の紹介

民生委員・児童委員との協働による 子育てサポートブック「びよびよ」の作成

子育てグループの紹介・子育てを応援してくれる機関・公園の案内など、身近なお役立ち情報が満載されています。
子育て健康課・保健センターなどに設置しています。



子育て 支援

児童館活動

加里屋児童館

月1回（H25年度は第2木曜日）乳幼児を対象にした絵本の読み聞かせと簡単なおもちゃ作りをしています。
毎月絵本を2冊読んだ後、親子でおもちゃ作りを楽しみます。
けがをしないように安全に注意しながら行っています。



自分が作ったおもちゃを使って
みんなで競争したよ



本の周りに集まって、絵を見ながら
楽しく聴けたよ

坂越児童館

年1回の手作りおもちゃ講座。
今までに、もちつきうさぎ、紙皿のこま・風輪、飛び出すコップ、登るおもちゃ、飛びうさぎ、バルーンアートなどたくさん作りました。
うまく出来たときは歓声が上がリ、周りの人から拍手をもらうと笑みがこぼれていました。

赤ちゃん訪問

子育て応援隊の人と一緒に、保健センターから依頼された赤ちゃんがいる家庭を訪問しています。赤ちゃんの様子を尋ねたり、お母さんの悩み事に耳を傾けたりしています。また、その子の成長とともに長く見守る体制作りを目指しています。



し・あ・わ・せ フェスティバル参加

民生委員・児童委員の児童福祉社会の協力を得ながら子どもたちとおもちゃ作りをしています。平成24年度には「ブンブンごま」「よちよちペンギン」「パラパラ（マジックカード）」を作りました。



私たちに ご相談ください！

皆さんの子育てに関する悩み、地域で気に掛かることをお話しください。
私たちは、相談内容に応じて市の子育て健康課・青少年育成センター・保健センター・学校（園）・保育所などの関係機関に橋渡しをします。
各関係機関や団体と連携し、民生委員・児童委員などと協力しながら活動することにより方向性に向かわせることが必要と実感しています。
ご相談内容の秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。



赤穂中学校区 志水 矛
赤穂西中学校区 松本 十代子
赤穂東中学校区 片山 容子
坂越中学校区 山根 寿美子
有年中学校区 軀川 聡美
主任児童委員の
連絡先は子育て
健康課（☎431
6808）におた
ずねください。



子育てに本当に大切なことが、新聞のコラムに書いてありました。
子どもが毎日、安らかな気持ちで過ごせるようにしてあげてほしいということ。
親の願いが強いと、子どもはとも大変です。親の望む結果が必ず出るとは限りません。親が目をつぶれないと、子どもを傷つけることになります。
実は、子ども時代の一日一日を安らかな精神状態で過ごせるのは何よりも大切なことです。その中で初めて「自分は親に愛されている。自分はこの家においていいんだ」と感じられるからです。
私もよく分かってはいるのですが、実際に実行するのはとても難しいのです。健康でさえあれば、何もいらなないと思いつつ、ついつい望みは大きくなります。
子どもの身になって、黙って見守っていきたく思う今日の頃です。

「ストップ・ザ・無縁社会」

全真キャンペーン

人と人、人と社会とのつながりが薄れ、孤立する人々が急増しています。

若者であっても、家族がいても、周囲から孤立し、人生の最後をひとりで見送る孤立死や引き取り手のいない無縁死の急増。

このような無縁社会と呼ばれる社会状況に警鐘をならし、家族や地域、職場など身近なところから、あらためて「つながり」を見直し、「つながり」を広げて、人と人が支え合える社会の実現に向けての取り組みが始まりました。



無縁社会から 支え合い社会へ

1人暮らし
高齢者の増加



近所付き合いの
希薄化



1人で子育てに
悩む母親



人は、ひとりだけでは生きていくことはできません。人は、人との交わりの中で幸せを感じることができます。生きる力が生まれます。子どもたちが、未来を安心して生きていけるために、今を生きるみんなで「支え合い社会」づくりに取り組みましょう。

限界集落と
オールド
ニュータウン



新しい縁の かたちを紹介します

★知縁

知り合ったことを大切に結び合う関係づくり。意図的、選択的につながりを作り出していく新しい人間関係。

★必要縁（子ども縁・介護縁・やむを縁など）

子育て、介護、引きこもり、失業などの解決のために連携していくことで、新しい縁が生まれる。

★共生縁

多くの人が弱者の時代に、助ける人と助けられる人という縁ではなく、互いに支え合う縁を結んでいく。などが提唱されています。

編集後記

この小さな広報紙に掲載出来る内容は、限られた、ほんのわずかですが、私たちは温かい思いやりのある社会づくりの一役を担うべく活動を続けています。

また、未来を生きる子どもたちの社会が心豊かな支え合いの社会であるように祈らずにはられません。

広報部会